

社会科学習指導案

指導者： 広島市立〇〇中学校
教諭 〇〇 〇〇

- 1 日 時 平成23年12月〇日 (〇)
- 2 学年・組 2年〇組
- 3 単元名 「第1節 世界と日本の自然環境」

4 単元について

○ 教材観

本教材では、自然環境の基本的要素である地形と気候を表す、地図、地形図、雨温図、植生分布図等をはじめ、景観写真、様々な地域の生活を表す資料等を活用することによって、自然環境が人々の生活や生産活動に大きく関わっていることがよく分かる。また、自然環境がもたらす自然災害については、身近な地域の防災ハザードマップ等の資料から、自分たちの問題として災害と防災に対する関心をもたせることによって、自然環境についての知識と生活とを結びつけることのできる教材である。

○ 生徒観

本学級は、落ち着いて学習に取り組むことができ、いろいろな発想が出る集団である。しかしながら、その発言は一部の生徒に限られている。授業展開に小グループの活動（協同的な学び）を取り入れることにより、生徒は気軽に自分の意見が言え、学びに全員が参加できるようになる傾向も見られる。

○ 指導観

授業展開に小グループの活動を取り入れることにより、学びに全員が参加できるようにするとともに、思考・判断力や技能・表現力といった知識を活用する力を育てていきたい。また、人々の生活や生産活動を自然環境との関わりを資料から読み取らせながら考えさせることにより、その自然環境に応じた災害への対策を考えていくような授業を展開したい。

5 単元の目標

- ・世界全体から日本を1つの地域として見た日本の地域的特色と、日本全体から見た国内の諸地域の特色をとらえる活動を通して日本国土の特色を自然環境の面から理解する。
- ・地形や気候と人々の生活や生産活動とのかかわりを理解する。
- ・自然環境のもたらす災害を理解し、防災に対する具体的な対策を考える。

6 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
<ul style="list-style-type: none">・世界と日本の地形や気候の特色に関心を持ち、人々の生活や生産活動との関わりを意欲的に追究している。・世界と比較した日本の地形や気候の特色に関心を持ち、災害に対する具体策を意欲的に追究している。	<ul style="list-style-type: none">・人々の生活や生産活動への努力や工夫について自然環境から多面的に考察している。・自然災害の原因から災害への防止策を多面的に考察している。	<ul style="list-style-type: none">・地図、主題図、雨温図、写真などの資料を活用し、世界と日本の地形や気候についてその特色を読み取り、結果をまとめたり、説明したりしている。・資料から人々の生活や生産活動との関連を追究し、その結果をまとめたり、説明したりし	<ul style="list-style-type: none">・世界と日本の地形や気候の特色を理解しその知識を身に付けている。・自然環境が人々の生活や生産活動に影響を与えていることを理解し、その知識を身に付けている。・自然災害の原因を理解し、防災への知識

		ている。 ・自然災害の原因と対策を自然環境と関連させてまとめたり，説明したりしている。	を身に付けている。
--	--	--	-----------

7 指導・評価計画 (全9時間 6/9)

小単元	学習内容	評価の観点				
		関	思	技	知	具体的な内容
1 世界の地形のようす	造山帯と平原		○	◎		・地震と火山の分布図と造山帯の関連を考察している。
2 日本の山地と海岸，川と平野	山がちな日本の地形の特色			○	◎	・日本の地形の特色を理解し，代表的な地名を身に付けている。
3 世界の気候のようす ①5つの気候帯の特色(景観写真より)	5つの気候帯の特色(景観写真より)	◎	○			・写真の植生，住居の特色から5つの気候帯の特色を考察している。
4 世界の気候のようす ②5つの気候帯の特色(雨温図，地図より)	5つの気候帯の特色(雨温図，地図より)		○	○	◎	・雨温図から5つの気候帯の特色を考察している。 ・5つの気候帯の分布の規則性を追究し，理解している。
5 世界の気候のようす ③気候区分の特色(雨温図，景観写真より)	熱帯，乾燥帯，寒帯の気候区分・高山気候の特色(雨温図，景観写真より)		○	◎		・雨温図と景観写真から気候区分の特色を考察している。
6 世界の気候のようす【本時】 ④世界の住居の特色(雨温図，写真より)	気候による住居の工夫(雨温図，住居の写真より)		◎	○		・伝統的な家の特徴と雨温図を関連付けて住居の工夫を説明している。
7 日本が属する温帯の特色(雨温図，写真より)	3つの温帯の特色・日本の気候の特色	◎	○	○		・景観写真から温帯にも地域によって差があることに関心をもっている。 ・風や梅雨，台風の生活への影響を景観写真と結びつけて考察している。
8 日本の気候の地域差を見よう	位置と地形との関係による日本の気候区分の特色		○	○		・雨温図を比較し，地域の特色を考察している。
9 自然災害とその対策	日本に見られる多様な災害と自然の特色，人間の活動との関連・防災の工夫		◎	○	○	・災害の原因を自然の特色や人間の活動と関連させて考察している。 ・防災マップをから防災対策を考察している。

8 本時の目標

雨温図，写真などの資料を読み取り，その特徴を表現している。【技能・表現】

伝統的な家の特徴と雨温図を関連付けて住居の工夫を説明している。【思考・判断】

9 本時の学習展開

学習活動	予想される生徒の反応	支援・評価
<p>1 復習 「この家を何といいますか。」 「なぜこのような家で生活しているのですか。」</p>	<p>・挙手して，指名された生徒は答える。 →ステップ気候での遊牧に適しているため。</p>	<p>支援 ○大型テレビを使って写真(ゲル)を提示する。 ○教科書 P144, 145 から読み取らせる。</p>
<p>【学習課題】 写真に見られる地域の伝統的な家にはどのような工夫があるのか，その理由を気候と関連させて考えよう！</p>		
<p>3 I～IIIの各2つの資料から家の工夫を考える。 ※I→II→IIIの順番 「それぞれの家の特徴と気候の特徴から，なぜこのような家になっているのかを教えてください。」 (ワークシートに記入) ・小グループで考える。 ・理由を発表し合い，板書とワークシートにまとめることで考えを共有しあう。</p>	<p>・小グループで相談して答えを考える。(協同的な学び) (理由) →I ①冷帯で冬の低温による二重窓の工夫，永久凍土が夏場とけることに対応した木造の高床住居である。 →I ②熱帯で年中高温，多雨。高床で湿気防止，風通しをよくして暑さ予防をしている木造住宅である。 →II ①サバナ気候で雨季と乾季の降水量の差がある。木造である。水上での漁業生活を営んでいる。 →II ②高山気候である。低地はサバナ気候であるため，雨季と乾季があり水位が上下する。木が育たず草の家である。 →III ①樹木が少ない。温帯だが窓が広く日差しを取りこむ工夫をしていることから高緯度の国。 →III ②乾燥帯で周りは砂，砂埃や熱を遮断するために窓が小さい。</p>	<p>○大型テレビとプリント資料を使って写真を提示する。 支援 ○机間指導により，小グループでの話し合いを促す。 ○家のしくみ，材料などから共通点や違いを考えさせる。 評価 ○雨温図，写真などの資料を読み取り，その特徴を表現することができる。【技】 ※III ①から，温帯なのに木の家ではない等雨温図以外からその理由を考えさせてみる。</p>
<p>4 本時のまとめ 「今日の学習を通してわかったことをまとめてみよう。」 (ワークシートに記入) ・自分としての答えをまとめる。 ・家の工夫，新たな疑問などをまとめる。</p>	<p>→人間が自然条件と共存して創り上げた伝統的住居により人間の命は守られてきた。</p>	<p>評価 ○伝統的な家の特徴と雨温図を関連付けて住居の工夫をワークシートに記入し，説明することができる。【思】</p>